

医学教育分野別評価 山形大学医学部医学科 年次報告書
2025年度

評価受審年度 2022（令和4）年

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.1 使命
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
医学部の使命を整理して、大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にわかりやすく示すべきである。	
現在の状況	
<p>医学部の使命は「人間性豊かな、考える医師の養成」という建学の精神に掲げており、建学の精神をもとに基本理念、医学部の目的を医学部の使命として規定、医学部医学科の教育目標と関連づけている。医学部ホームページ、学生便覧、山形大学医学部ガイドに明示しており、学生のほか学内学外の方へ示している。</p> <p>また、令和6年度に再開された県医師会との懇談会において、大学病院改革プランに基づき、医学部の使命や達成するためのカリキュラム等を説明する機会を設けた。</p>	
今後の計画	
<p>大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にわかりやすく示すことができるように、医学教育プログラム策定委員会および広報委員会が連携し、医学部ホームページ等の内容を見直し、より充実させるとともに活用しながら、医学部の使命を適正に周知できる明示方法を検討していく。</p> <p>また、引き続き、県知事・県職員との意見交換会、ならびに県医師会との意見交換会において、医学部の使命やそれを達成するためのカリキュラムなどを説明する機会を設けていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 山形大学医学部と山形県医師会との懇談会	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
適切な行動について、学則・行動規範等に記載すべきである。 コンピテンシーを学生と教員に確実に周知し、理解を求めるべきである。	
現在の状況	
コミュニケーション能力に関する、より具体的な評価基準を教務委員会、厚生委員会にて指針の検討を行い、「医学部学生のアンプロフェッショナルな行動に関する対応について」の申合せを厚生委員会にて作成した。 コンピテンシーについては、シラバス作成時において、各科目に必ず記載するように求めており、医学部専用掲示板 Moodle に掲載し学生に周知している。	
今後の計画	
プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する指針については、学生の意識づけを強化するため、ホームページ、学生便覧や臨床実習の手引き等に掲載する。また、各学年での授業等で取り上げる等、早期から時機を得て段階的に学生に指導・周知するとともに、新入生オリエンテーションにおいても早期から注意喚起を徹底していく。 令和4年度改訂版モデル・コア・カリキュラムを踏まえたコンピテンシーについては、moodle への掲載のほか、医学部ホームページ上に公表する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2 令和7年度医学科シラバス入力マニュアル 資料3 医学部学生のアンプロフェッショナルな行動に関する対応についての申合せ	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業時の学修成果と卒後研修終了時の到達目標を関連づけて明示することが望まれる。	
現在の状況	
<p>卒業時の学修成果はディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとして明確にしており、卒後臨床研修終了時の学修成果は、卒後臨床研修の手引き等に明記している。</p> <p>6年次学生を対象に、医師のキャリアパスを考えるセミナーを実施し、卒前の獲得目標と卒後臨床研修に必要とされる基本的知識・技能・態度の関連を考える機会を設けている。</p> <p>また、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の導入に向けて具体的な検討を開始した。先行して導入・運用している大学（10大学抽出）へアンケート調査を実施し、各大学における運用状況、評価表の活用方法、主要な使用機能及び運用上の課題について整理・比較分析を行った。調査結果を踏まえ、CC-EPOCの機能確認・操作マニュアルを作成、検討するためのワーキンググループを立ち上げ、本学での運用方針、実施計画等について検討を進めている状況である。</p>	
今後の計画	
<p>CC-EPOC導入に向けて順調に進めており、トライアル実施に向けた具体的な実施案の作成、問題点の洗い出しの検討を行う。学内での取り組み状況に応じ、順次、学外広域連携病院への検討を開始する予定である。また、本学学生・教職員のほか、学外協力病院等にわかりやすく示すために、CC-EPOC専用ホームページを作成し、コンテンツの精査を行う。</p> <p>卒前教育と卒後研修の一貫した教育体制の充実を目指し、教務委員会、卒後臨床研修センター教員会議と連携し、現状把握と問題点の洗い出しを行い、教育プログラムを検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 令和6年度教務委員会議事（第9回 令和7年1月14日開催）	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
使命と学修成果の策定にかかる委員会に、学生が正式な委員として参画すべきである。	
現在の状況	
医学部の使命と学習成果の策定にかかる委員会をどこに位置づけるかを含め、「学生の参画」に関する議論を深め検討を行っている。	
今後の計画	
学修成果の策定にかかる委員会をどこに位置づけるかも含めて「学生の参画」に関する議論を深め、規則改正等に取り組むようにする。 委員会等への学生の参画については、毎月開催している意見交換会を教務委員会の一部として運用できないかとの意見もあるため、委員会の一部とすることを検討していく。一方、学生の授業時間、医師の働き方改革による委員会の開催時刻の調整など課題があるため、多岐にわたる問題点等を精査し、今後検討を重ねていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>使命と学修成果の策定に、広い範囲の教育関係者からより確実に意見を聴取することが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>本学医学部は蔵王協議会と連携しており、本協議会の会員は、県内地域医療の代表者および医療関連行政組織等で構成されているため、意見聴取することは可能な状況である。</p> <p>広域連携臨床実習運営会議において毎年開催しているため、意見聴取することは可能な状況である。</p> <p>また、令和6年度に再開された県医師会との懇談会において、大学病院改革プランに基づき、医学部の使命や達成するためのカリキュラム等を説明する機会を設けた。</p>	
今後の計画	
<p>蔵王協議会にて医学部の使命、学修成果の策定等、教育に関する意見を聴取し継続的な体制づくりを検討する。</p> <p>蔵王協議会を発展させ、多くの関係者から意見を聴取できるよう検討する。</p> <p>広域連携臨床実習運営会議は医学部・協力病院・山形県が一堂に会する場であるため、医学部の使命、学習成果の策定等に関し、幅広い意見を聴取する機会を設ける等の会議内容を検討していく。</p> <p>また、引き続き、県知事・県職員との意見交換会、ならびに県医師会との意見交換会において、医学部の使命やそれを達成するためのカリキュラムなどを説明する機会を設けていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 山形大学医学部と山形県医師会との懇談会	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>6年間のカリキュラム全体を俯瞰し、全ての学修成果を修得できる教育プログラムを早急に構築し、確実に実施すべきである。</p> <p>学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法/学修方法をより多く採用すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>全学生が参加できる「課外研究室研修プログラム」を継続的に行っており、学生が探求心、医学へのモチベーションを高めることに繋がるよう実施している。</p> <p>学習支援システム Moodle を活用し、講義資料を原則授業2日前までにアップロードし学生の事前学習等に取り組みやすいよう活用している。一方、学生から使いにくい箇所もある旨の要望もあることから、学生との意見交換を行い、学生モニターを選出し、学生の意見を取り入れながら機能をアップデートし拡充を図った。</p> <p>また、Moodle を利用して学生の出欠管理ができるように、出欠管理システムの導入の検討を開始した。各講座でのトライアルを実施し、令和7年4月からの運用に向けてマニュアルを整備した。</p> <p>遠隔教育の推進を図るため、講義動画システムを導入した。講義動画を容易かつ安定的に収録可能な新システムを構築し、各講義室に講義動画専用端末を設置した。令和6年11月から運用開始しており、数十本の動画が作成されており、これらの動画コンテンツは学生の予習・復習に活用されており、デジタルライブラリー化が進んでいる。</p> <p>カリキュラム全体の見直しや新しいプログラムを構築するために「医学教育プログラム策定委員会」を令和6年4月に設置した。</p>	
今後の計画	
<p>学習支援システム Moodle において、コンテンツをアップロードしやすい環境を構築するとともに、学修意欲を高められるようなシステムの構築と e-learning コンテンツの拡充を図る。出欠管理システムの効果を測るためのアンケートを実施するとともに、要望に応じて随時説明会等の開催を検討する。</p> <p>全ての学習成果を修得できる教育プランを早急に構築するため、医学教育プログラム策定委員会を定期的に開催する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料5 令和6年度医学部教務委員会議事 (第7回 令和6年11月12日開催)</p> <p>資料6 令和6年度医学部教務委員会議事 (第11回 令和7年3月11日開催)</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 教育プログラムの構成
質的向上のための水準： 適合	
改善のための示唆	
自己主導型学習の意識を高めるためのプログラムの拡充が望まれる。	
現在の状況	
<p>自己主導型学習の意識を高めるために、生涯学習への姿勢を目標に掲げるカリキュラムが編成されている。1年次「学部導入セミナー」「早期医学・医療体験学習」、3年次「研究室研修」、全学年対象「課外研究室研修プログラム」を受講することにより、生涯学習に関連するカリキュラムを通じて学生の自己主導型学習の意識を高めるよう指導している。</p> <p>令和6年度にワンストップ臨床研究サポートセンターが新設された。同センターの事業の一環として、高度医療人材養成拠点形成事業の採択に伴い、学生のAA、TA、RAによる屋根瓦式教育研究サポートシステムの構築を掲げている。学部生、大学院生の各申込みによりAA、TA、RAに採用の上、教員の研究サポートを担っている。</p>	
今後の計画	
<p>「研究室研修」から「課外研究室研修プログラム」への執行状況や、その後のキャリア形成、生涯学習への取り組みに与える影響の評価を行うことを検討するとともに、現行のカリキュラムの見直しを図る。</p> <p>自己主導型学習の意識を高めるためのプログラムを拡大するために、ワンストップ臨床研究サポートセンターの活用を推進する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料7「ワンストップ臨床研究サポートセンターによる生活習慣病ゲノムコホート研究の推進と臨床研究医養成事業」活動報告	

今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
EBM に関する諸講義および臨床実習に共通する標準的教育方法が整理されておらず、今後さらに整備すべきである。	
現在の状況	
EBM (科学的根拠に基づく医学) に関する主なカリキュラムは、年次進行に応じた積み上げ、発展形式のカリキュラム編成としているが、EBM に関する講義、臨床実習に共通する標準的教育方法は整理されていない状況である。	
今後の計画	
EBM (科学的根拠に基づく医学) に基づく臨床実習は行われている一方、講義について行われているかどうかの確認を行うこととし、講義スケジュールや教育方法について、新たに設置した医学教育プログラム策定委員会にて検討し、EBM の体系的な教育カリキュラムの策定を目指す。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
臨床医学を修得し応用するために必要となる科学的知見や概念、手法について、担当するカリキュラム検討委員会で議論したうえで、より多くカリキュラムに盛り込むべきである。	
現在の状況	
3年次開講「臓器疾患学」4年次開講「全身性疾患学」においては、基礎医学系講座の教員も関与し、臨床医学修得における基本的概念理解が図られている。 また、2年次「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」の終了後に「局所解剖・画像診断特論」を開講し臨床現場での画像診断における局所解剖の重要性や意義を理解させている。	
今後の計画	
臨床医学を修得し応用するために必要となる科学的知見や概念、手法について必要なAIやVRを用いた手法の導入を進めシステマティックに使用でき、より多くのカリキュラムに盛り込まれるよう、カリキュラム検討委員会及び医学教育プログラム策定委員会等で検討していく。 また、2年次開講「局所解剖・画像診断特論」については、垂直統合教育のあり方を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8 令和6年度医学教育プログラム策定委員会議事 (第3回 令和7年1月15日開催)	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
将来に向けて必要になると予想される基礎医学について教育内容を検討することが望まれる。	
現在の状況	
正課の「研究室研修」、課外の「研究室研修プログラム」を実施し、学生に最新の医学に触れる体制を整備している。	
今後の計画	
正課・課外の研究室研修プログラムの評価、有効性について、各講座の意見を取り入れながら、よりよい体制を整備できるよう検討する、。	
令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムを視野に入れ、AI教育やVR、データサイエンス等のデジタル技術を活用した医学・医療技術の分野をカリキュラムに取り入れることを医学教育プログラム策定委員会で検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8 令和6年度医学教育プログラム策定委員会議事 (第3回 令和7年1月15日開催)	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
6年間のカリキュラム全体を通じて、行動科学、医療倫理学について体系的に学ぶ機会を設け、実践すべきである。	
現在の状況	
<p>行動科学に関する授業内容は、複数講座が担当する臨床医学系講義および実習で扱っているほか、令和6年度より1年次科目「学部導入セミナー」等にも内容を盛り込んでいる。その結果、単体での授業科目ではなく、1年次から6年次まで全学年に亘り体系的に学ぶ機会を設け、全38科目（コース）で行動科学に関する教育が行われている。行動科学を独立した単位として扱うことが必要かどうかを含め、引き続き、医学教育プログラム策定委員会等で検討することになる。</p> <p>また、医療倫理学に関しては、3年生「研究室研修ガイダンス」、4年生「社会医学・医療学」、6年生「演習型講義」において学ぶ機会を設けている。</p>	
今後の計画	
<p>全学年で教育している行動科学の授業について、単体での科目の設置、または、行動科学に関する教育が行われている授業科目を取りまとめ Moodle に掲載する等、学生への周知方法を検討する。</p> <p>また、医学教育学講座を中心に、行動科学教育パッケージカリキュラムを整備できるよう検討する。</p> <p>行動科学と同様、医療倫理も窓口となる担当者を決め、パッケージカリキュラムを整備できるか検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料9 2025シラバス（学部導入セミナー）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
将来に向けて必要になると予測される行動科学、社会医学、医療倫理学の教育内容を検討し、カリキュラムを調整および修正することが望まれる。	
現在の状況	
教務委員会、カリキュラム検討委員会を中心に、カリキュラム検証・改善を継続的に検討する。	
今後の計画	
医学教育学講座を中心に、医学教育プログラム策定委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会にて、カリキュラム検証・改善を継続的に検討し、授業の見直しや改善事項等について、適宜対応を依頼する。	
改善状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>診療参加型の臨床実習期間を十分に確保すべきである。</p> <p>クリニカルクラークシップの内容を吟味し、医療チームの一員としての態度・技能・コミュニケーション能力が涵養されるようなプログラムを構築すべきである。</p> <p>学生が経験すべき疾患、医行為を定め、実施状況を把握し、臨床実習プログラムを見直すべきである。</p> <p>健康増進、予防医学に関する体験を確実に実践すべきである。</p> <p>全ての学生が、重要な診療科で十分な実習を行う機会を確保すべきである。</p> <p>医療安全および感染症対策に関する講習会に学生も参加するなど、患者安全に配慮した臨床実習を構築すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応するために、教務委員会、カリキュラム検討委員会において具体的な検討を開始した。ワーキンググループを立ち上げ、臨床実習の各シミュレーションを基にPhase数、回り方、組み合わせ、スケジュール等について議論を重ね、課題解決に向けて検討を図った結果、令和6年12月18日の持ち回り教務委員会にて承認された。</p> <p>また、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の導入に向けて具体的な検討を開始した。先行して導入・運用している大学（10大学抽出）へアンケート調査を実施し、各大学における運用状況、評価表の活用方法、主要な使用機能及び運用上の課題について整理・比較分析を行った。調査結果を踏まえ、CC-EPOCの機能確認・操作マニュアルを作成、検討するためのワーキンググループを立ち上げ、本学での運用方針、実施計画等について検討を進めている状況である。</p>	
今後の計画	
<p>令和7年10月以降の臨床実習のスケジュールについては、改訂コアカリに準拠した臨床実習の回り方が適用されたことに伴い、各診療科との調整等、種々準備を進めていく。</p> <p>CC-EPOC導入に向けて順調に進めており、トライアル実施に向けた具体的な実施案の作成、問題点の洗い出しの検討を行う。学内での取り組み状況に応じ、順次、学外広域連携病院への検討も開始していく計画である。また、本学学生・教職員のほか、学外協力病院等にわかりやすく示すために、CC-EPOC専用ホームページを作成し、コンテンツの精査を行う。</p> <p>健康増進、予防医学については、1年次に「禁煙教育」を実施しており継続する他、保健所や健康診断センター等の体験（訪問）授業の実施を検討する。</p> <p>病院の医療安全や感染症対策に関する講習会については、学生にe-learningを活用し受講させることが可能か検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料4 令和6年度医学部教務委員会議事（第9回 令和7年1月14日開催）</p> <p>資料10 令和7年10月以降の臨床実習の回り方についてのWG議事</p>	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>2年次および3年次でも患者との接触機会を設け、6年間にわたって患者と接触する機会を持つことが望まれる。</p> <p>シミュレーターをさらに活用し、学生が段階的に臨床技能を修得できるプログラムを構築することが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされていたが、令和5年度より1年次開講「早期医学・医療体験学習」では救急車搭乗実習を再開、4年次開講「総合医学演習：地域医療学」では、地域病院見学実習を再開実施できることとなった。</p> <p>シミュレーターについては、OSCE実施に合わせて活用しているが、基本的臨床技能の習得度合を評価するために、カリキュラムを見直し「基本診療学（基本診療技能学）」の実施計画を再検討する。</p>	
今後の計画	
<p>令和5年度より1年次開講「早期医学・医療体験学習」では救急車搭乗実習を再開、4年次開講「総合医学演習：地域医療学」地域病院見学実習を再開できることとなったため、継続的に実施していく。</p> <p>シミュレーターの活用について、共用試験 Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE の各試験前に、YU-MAI センターの各教室を一定期間自主学習用スペースとして開放し、学生が自由に学習できるように環境を整えるよう検討する。</p> <p>「基本診療学（基本診療技能学）」については、授業（講義、実習）の方法を見直す等、実施計画を再検討する。</p> <p>2年次および3年次において、患者と接触する機会を設けるため、看護師や医師の業務に同行するようなプログラム（シャドウイング）を検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学の適切な関連と配分、実施順次性などを検討し、教育プログラムをさらに改善すべきである。	
現在の状況	
<p>行動科学に関する授業内容は、複数講座が担当する臨床医学系講義、実習で扱っているほか、令和6年度より1年次科目「学部導入セミナー」等にも内容を盛り込んでいる。その結果、授業ではなく、1年次から6年次まで全学年に亘り体系的に学ぶ機会を設け、全38科目（コース）で行動科学に関する教育が行われている。行動科学を独立した単位として扱うことが必要かどうかは、引き続きカリキュラム検討委員会等で検討することになる。</p> <p>また、医学部におけるカリキュラム編成を目指し、医学教育プログラム策定委員会において全体的なカリキュラムの見直しの検討を開始した。</p>	
今後の計画	
1年次のみならず、複数学年にわたり行動科学を導入するために、医学教育プログラム策定委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会にて検討し、カリキュラム編成を行う。令和4年度改訂医学教育モデル・コア・カリキュラムに即したカリキュラムの編成を目指し、基礎医学、社会医学および臨床医学も含め継続的な改善を目指していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料9 2025シラバス（学部導入セミナー）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全ての教育課程で、関連する科学・学問領域および課題の水平的統合、垂直的統合を、より一層充実、拡充させることが期待される。	
現在の状況	
臨床医学教育に関する科目では、ほとんどの科目において水平的統合を満たしており、効果的な学習が可能になっている。また、「局所解剖・画像診断特論」「臓器疾患学」「社会医学・医療学」「総合医学演習」においては、垂直統合を目指し検討していくことになる。	
今後の計画	
「臓器疾患学」と「全身性疾患学」等の科目間での講義内容の重複が見られることが指摘されており、医学教育プログラム策定委員会にて検討を行い、また、医学科学生と教務委員会との意見交換会を通じて学生の意見・要望を伺いながら、カリキュラム内容を精査し、更なる改善を目指していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

2.教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学修成果が達成されることを指標として、教育プログラムを立案、実施する仕組みを構築すべきである。</p> <p>カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会を明確にし、それぞれの委員会の役割分担を明確にすべきである。</p> <p>学生の代表を、カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の正式メンバーとすべきである。</p>	
現在の状況	
<p>教務委員会、カリキュラム検討委員会および教育プログラム評価委員会において、教育における PDCA サイクルを回しているが、各委員会が担う役割分担が不明確な箇所があること、また、カリキュラムや教育プログラムの策定にかかる委員会がないことの指摘を受け、各委員会の果たす役割と教育プログラム策定に係る新たな委員会を設置することを検討し、令和6年4月に医学教育プログラム策定委員会を設置した。</p> <p>カリキュラム検討委員会では、各学年から1名代表学生を委員として参画している。また、学生と教務委員会との意見交換会を月2回開催（低学年高学年）し、学年代表者と教務委員が意見交換を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>医学教育プログラム策定委員会は、教務委員会並びにカリキュラム検討委員会とは独立した委員会で、プログラム策定に特化した委員会とし、教育プログラム評価委員会の提言の実質化を図り、随時検討を進めていく。</p> <p>学生がカリキュラム策定に十分関与・参画できる定期的な意見交換の場を設定し、学生・教員双方の満足度を高める。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 1 山形大学医学部医学教育プログラム策定委員会規程	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 教育プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>広い範囲の関係者から教育カリキュラムに関する実質的な意見を聴取する体制を構築することが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>カリキュラム検討委員会の構成員として、教員の他にメディカルスタッフ（看護部・薬剤部）、学生がメンバーとして参加しており、現場や学生の意見を聴取できる体制を整えている。</p> <p>「キャンパス執行部と学長・理事との情報交換会」、「学生と学長・理事との懇談会」が年2回開催されており、様々な意見を聴取する体制となっている。</p> <p>全学組織において教育推進機構運営会議が組織され、カリキュラム・チェックリストの検証・認定作業を通じた教育プログラムの評価が行われており、教育カリキュラムに関する実質的な意見を聴取することができる。</p> <p>「広域連携臨床実習運営会議」を通して、教育カリキュラムに関する意見聴取する機会を設ける等、体制を構築していく。</p>	
今後の計画	
<p>メディカルスタッフや学外関係者からの意見や情報を取り入れ、カリキュラム作成に反映されるように、意見交換の場を設ける等の体制を構築できるよう、定期的に改善していく。</p> <p>「広域連携臨床実習運営会議」を通して、教育カリキュラムに関する意見聴取する機会を設ける等、引き続き検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
山形県からの寄附講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座」、「広域連携臨床実習運営会議」などを通して、教育プログラムに関して意見聴取するシステムを確立し、カリキュラム改良を確実に行うことが望まれる。	
現在の状況	
寄附講座「地域医療を担う医師等のキャリア形成推進講座」では、一部の診療科において、広域連携臨床実習の協力病院から総合診療医師を非常勤講師としてお招きし、本学部の臨床実習（ベーシッククリニカルクラークシップ）での Small Group Teaching として、実践的な学生実習を実施している。 広域連携臨床実習運営会議を毎年開催しているが、教育プログラムに関する意見聴取の機会が確実に盛り込まれているとは言えない。	
今後の計画	
広域連携臨床実習運営会議においては、教育プログラムに関して意見聴取する機会を設ける等の会議内容を検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>医師になる者としての適切な態度、行動について、低学年から継続的に評価するシステムを構築すべきである。</p> <p>臨床実習において、mini-CEX や 360 度評価などを用いて、技能と態度の評価を確実に実施すべきである。</p> <p>評価方法および結果に利益相反に関する規定を定めるべきである。</p> <p>評価が外部の専門家によって精密に吟味されるべきである。</p>	
現在の状況	
<p>プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する制度の導入については、コミュニケーション能力に関する、より具体的な評価基準を教務委員会および厚生委員会にて指針の検討を行い、「医学部学生のアンプロフェッショナルな行動に関する対応について」の申合せを厚生委員会にて作成した。</p> <p>学内および広域病院の臨床指導に当たる教員向けに FD 講演会を実施しており、令和 6 年度第 1 回 FD 講演会では、「医学生のプロフェッショナリズム教育」をテーマに講演会を開催した。</p> <p>また、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の導入に向けて具体的な検討を開始した。先行して導入・運用している大学（10 大学抽出）へアンケート調査を実施し、各大学における運用状況、評価表の活用方法、主要な使用機能及び運用上の課題について整理・比較分析を行った。調査結果を踏まえ、CC-EPOC の機能確認・操作マニュアルを作成、検討するためのワーキンググループを立ち上げ、本学での運用方針、実施計画等について検討を進めている状況である。一部の診療科では mini-CEX を導入し活用している。</p> <p>評価方法および結果に対する利益相反を想定した諸規則は定めておらず、当該利益相反の事案は発生していない。</p> <p>試験問題および解答を学生に公表し、識別指数を用いた採点結果の検証作業を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>プロフェッショナリズム／アンプロフェッショナリズムに関する指針については、学生の意識づけを強化するため、ホームページ、学生便覧や臨床実習の手引き等に掲載する。また、各学年での授業等で取り上げる等、早期から時機を得て段階的に学生に指導・周知するとともに、新入生オリエンテーションにおいても早期から注意喚起を徹底していく。</p> <p>臨床実習の評価に関する FD 講演会の数年の実績を踏まえて対応する。</p> <p>改訂コアカリでの例示を参照して、mini-CEX 等の導入を検討する。</p> <p>学生の評価に関する利益相反の規定の明確化を検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 3	アンプロフェッショナルな行動に関する対応についての申合せ
資料 4	令和 6 年度教務委員会議事（第 9 回 令和 7 年 1 月 1 4 日開催）議事
資料 1 2	令和 6 年度 F D 講演会実施要項

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>各科目の評価について信頼性と妥当性を検討することが望まれる。 外部評価者の活用を進めることが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>各科目の評価については、試験問題および解答を学生に公表している。また、5年次試験や卒業試験においては、採点結果に対する学生からの疑義照会を受け付けており、信頼性と妥当性に努めている。</p> <p>成績評価への外部評価者の活用は、CBT 試験、Pre-CC OSCE、Post-CC OSCE の共用試験において、学外の外部評価者を受け入れて実施しているが、学内の進級卒業判定にかかることについては、学内の会議に外部評価者がかかわる余地がなく、あり方を検討することが必要である。</p>	
今後の計画	
<p>成績評価の信頼性と妥当性を適切に評価する方法を模索するとともに、その根拠となるデータの蓄積と分析を継続していく。</p> <p>成績評価に外部評価者を活用することについて、問題点を洗い出しながら仕組みづくりができるかどうかの議論を重ねて、外部評価者の活用方法を検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料 1 3 医学科の試験問題及び正答の取り扱いについて 資料 1 4 試験の疑義照会</p>	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>目標とする学修成果の達成度に基づく評価を実践すべきである。</p> <p>目標とする学修成果に整合した評価方法を用いて、学生が達成していることを段階的に保証すべきである。</p> <p>形成的評価を確実にに行い、学生の学修をより促進すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>評価方法については、授業および実習を担当する各講座が、各科目の開講方式の裁量があり、形成的評価の導入・実施も各講座の委ねている部分が多い。各講座の取り組み状況を確認しながら、有効な方策について見直しを進める。</p>	
今後の計画	
<p>コンピテンシーを意識した評価指標に基づく形成的評価を確実に実施する。</p> <p>講義および演習の途中で形成的評価を行う機会を設けることを前提として、制度の見直しを進める。</p> <p>学生一人ひとりにとって学修成果の達成度が異なることを前提として、つまずきのある学生を普段の関わりや定期試験の成績等を駆使して早期に洗い出すことができる学生支援の在り方を検討する。</p> <p>形成的評価と全てのカリキュラム単位で、その科目の特性を考慮した上で、有効な形成的評価と総括的評価のバランスを検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
全ての学生に対して、学修成果の評価結果に基づいた具体的、建設的、段階的なフィードバックを行うことが望まれる。	
現在の状況	
<p>アドバイザー教員およびメンター制度について、メンターが付いている学生に対してはメンター教員が定期的に状況を確認の上、学生にフィードバックを行っている。</p> <p>教務委員会において、試験問題および解答・採点基準等を学生が閲覧できるようにするための整備を行った。学生が解いた試験の採点基準などを確認できるようにし、成績評価の妥当性を透明化することを目的に、試験問題および解答を学生に公表している。</p>	
今後の計画	
アドバイザー教員およびメンター制度の利用について、個々の学生にどのようなタイミングで、どのような対応を行うことが適切であるのか、より具体的に、かつ、成長が確認できるフィードバックを行う方法を具体的に検討し、充実させる。	
現在の状況を示す根拠資料	
<p>資料13 医学科の試験問題及び正答の取り扱いについて</p> <p>資料14 試験の疑義照会</p>	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
選抜と医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べることが望まれる。 アドミッション・ポリシーを定期的に見直すことが望まれる。 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。	
現在の状況	
アドミッション・ポリシーに基づいて地域に貢献する医師として巣立ってもらえるような入学志願者を受け入れるために、分析・検討・改革を行っている。入学試験検討委員会では、入学後の成績や留年率、医師国家試験の合格率を調査しながら、選抜試験が適切であるか随時評価している。 アドミッション・ポリシーの見直しは社会的要請に沿った入学選抜方法の見直しの際に対応が必要になる。 入学許可決定への疑義対応手順は定められており、大学事務局で対応を行っている。	
今後の計画	
入学後の成績評価について、入学試験検討委員会と IR 委員会で調査・分析を行い充実させていく。 「地域枠」の入学・卒業生の追跡調査とともに、社会の要請を踏まえて制度の在り方を検討し県内定着率等も検証しながら制度の見直しを検討していく。 今後、疑義の申し立てがあった場合は手順に沿った対応を行っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

改善した項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
学生のカウンセリング制度を充実させ、よりきめ細かく運用すべきである。	
改善状況	
<p>本学全体での総合的な学生修学支援・カウンセリングのシステムは、各機関の協力を得ることで、医学部にも整備されており、学生に対してきめ細やかなに対応するよう心掛けている。アドバイザー教員メンター制度を充実させ、学生相談室（カウンセラー）等との連携を図り手厚いサポート体制を整えており、全学年を対象にフォローアップする体制を構築している。</p> <p>学生相談室の利用件数は年々増加傾向にあり、専任のカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）を配置し、学生の利便性を考慮し、授業後にも利用できるよう開設時間の設定およびオンラインでの面接も実施している。長期休暇や遠方での実習中でも利用すること可能であり、きめ細やかな運用を実施している。</p> <p>また、合理的配慮が必要な学生についても、山形大保健管理センター及び障がい学生支援センターと連携を図りサポート体制を整えている。</p>	
今後の計画	
<p>学生相談室（カウンセラー）とこころの相談室（精神科医、救急部等）の連携による支援対策の強化を図る。</p> <p>学生修学支援制度をよりきめ細かく運用するために、関係各署内での情報共有を密に図り、引き続き手厚いサポート体制を実施していく。</p>	
状況を示す根拠資料	
資料15 飯田キャンパスこころの相談室フローチャート	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
キャリアガイダンスを含めたカウンセリングをより充実することが望まれる。	
現在の状況	
<p>3年次と5年次を対象に、全員参加のキャリアパスセミナーを開催しており、キャリアガイダンス、キャリアプランニングに関する情報提供を行っている。講演会並びに卒業生（卒後臨床研修医）、教員との懇談の場で、先輩医師の経験や進路プランを見聞きすることができ、自身の将来の進路選択について考えさせる機会を設けている。</p> <p>また、カウンセリングでは、教員と学生による直接面談により、学生への将来（キャリアプランニング）を考える機会を設けている。</p> <p>FD講演会においては、日本医学教育評価機構（JACME）常勤理事の奈良信雄先生から「特別な支援を必要とする学生への支援、成績不振・不登校・中途退学者などを含む就学支援」をテーマに開催し、教職員のカウンセリング能力の向上を図った。</p>	
今後の計画	
<p>個々の面談指導、キャリアパスセミナーを継続して実施するとともに、現行の取組みの検証を行い、教職員のカウンセリング能力の向上を目的とするFD講演会等を検討し、より充実する取組みを図っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生の代表が参加し、適切に議論に加わるべきである。</p>	
現在の状況	
<p>カリキュラム検討委員会では、正式な学生委員から現行カリキュラムに対する意見・要望を聴取し、本委員会において検討・議論を行っている。</p> <p>学生と教務委員会との意見交換会を毎月開催し、学年代表者と教務委員が意見交換を行っており、その内容を定期的に教務委員会、各学年の学生に共有している。参加する教員数を増やして学生から寄せられる意見に迅速に多面的・総合的に的確に回答できるよう対応している。</p> <p>また、医学部の使命と学習成果の策定にかかる委員会をどこに位置づけるかを含め、「学生の参画」に関する議論を深め検討を行っている。</p>	
今後の計画	
<p>諸事項を審議する委員会をどこに位置づけるかも含めて「学生の参画」に関する議論を深め、規則改正等に取り組むようにする。</p> <p>委員会等への学生の参画については、毎月開催している意見交換会を教務委員会の一部として運用できないかとの意見もある。一方、学生の授業時間、医師の働き方改革による委員会の開催時刻の調整など課題も多く、議題に応じた出席制限を設けるなどの工夫を検討しながら、多岐にわたる問題点等を精査し、今後検討を重ねていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
教育、研究、診療の役割のバランスを含めた教員の活動を、より詳細にモニタする方針を策定し履行すべきである。	
現在の状況	
<p>医師の働き方改革への対応も迫られる中、教育・研究・診療活動の責務を担う教員医師の仕事の量に見合った人員配置が必要であるとともに、担当領域の適正に伴う教員の偏在という課題もある中で、戦略的な計画に基づいた教員の再配置を検討が必要である。</p> <p>現行の採用・選考基準に基づいた教員の採用活動及び人事考課を適切に行っていく。</p>	
今後の計画	
「教育」の実績に関する事項や定量化して評価することの難しい「診療の質」に関する事項について、教員の任用や昇進の評価指標として望ましい在り方に向けた議論を進めて、客観的評価を行うよう検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>教育、研究、診療の職務間のバランスを含め、教員の活動をより詳細にモニタし認識すべきである。</p> <p>教員がカリキュラム全体を十分に理解できるよう、研修、能力開発、および支援を実施すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>コミュニケーションインフラによる勤怠管理システムを導入して診察・研究・教育業務と自己研鑽を仕分けする等、医師の働き方改革にも対応して教員医師の負担軽減を図る。</p> <p>令和5年度実績に対する教員活動実績について、令和6年度中に全教員を対象に教員活動評価を実施した。なお、教員活動評価の自己申告書を活用して人事評価（勤勉手当成績優秀者の決定、特別昇給者の決定）も実施している。なお、より効果的な評価のため自己申告書の様式改定を行った。</p> <p>また、Dr. JOYにより勤怠管理を適切に行った。</p> <p>令和6年度よりFD講演会の実施回数を年2回に増やし、テーマ設定を考慮しながら実施している。</p>	
今後の計画	
<p>教務系ではなく総務系（人事・労務関係）の対応事項となるが、テニユア付与実績や教員の活動業績評価制度の運用実績、Dr. JOYの稼働実績等を適切に評価する。</p> <p>令和6年度実績に対する教員活動評価について、令和7年度中に実施する。人事評価についても同様に実施予定である。</p> <p>FD講演会の実施については、講演テーマの設定や講師の選定を工夫し、受講者の教員が学んだことを教育現場に還元しやすいよう、引き続き、企画立案を検討していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料16 教員活動評価自己申告書様式	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
医療安全および感染症対策に関する講習会に学生も参加するなど、より安全な学修環境を確保すべきである。	
現在の状況	
5年次開講「演習型講義」、4年次開講「総合医学演習（医学・医療言論）」において、医療安全に関する講義を実施している。また、3年次後期開講の全身性疾患学（感染症）の講義では、院内感染の予防策等、感染症対策に関する講義を行っている。	
今後の計画	
医療安全および感染症対策については講義のみではなく、附属病院感染制御部および医療安全管理部が連携して院内感染対策を推進しているため、感染制御に関する講習会等に学生を受講できるように検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
学修環境にかかる施設・設備の改善を確実に進めることが望まれる。	
現在の状況	
令和6年度に YU-MAI センターが設立され、従来の講義室ではできなかった学生の主体性を重視した教育活動の展開（アクティブラーニングやハンズオンなどの体験学習）が可能となった。また、患者面接や診療に必須となる手技等の訓練、各種シミュレーターを活用した模擬診療等の練習することが可能となり、学生のスキル向上につながる。	
今後の計画	
YU-MAI センター設立により、各種シミュレーターや診察ルームを利用し、臨床実習における多様な学習環境を整備できるように検討する。また、OSCE 実施の効率化だけでなく、臓器疾患学、全身性疾患学および臨床実習のプログラムにおいても使用する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学生が適切な臨床経験を積めるように、学生が経験する患者数と疾患分類をモニタし施設ごとに把握して、臨床実習施設を整備すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>令和6年度に YU-MAI センターが設立され、従来の講義室ではできなかった学生の主体性を重視した教育活動の展開（アクティブラーニングやハンズオンなどの体験学習）が可能となった。また、患者面接や診療に必須となる手技等の訓練、各種シミュレーターを活用した模擬診療等の練習することが可能となり、学生のスキル向上につながる。</p> <p>また、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の導入に向けて具体的な検討を開始した。先行して導入・運用している大学（10大学抽出）へアンケート調査を実施し、各大学における運用状況、評価表の活用方法、主要な使用機能及び運用上の課題について整理・比較分析を行った。調査結果を踏まえ、CC-EPOC の機能確認・操作マニュアルを作成、検討するためのワーキンググループを立ち上げ、本学での運用方針、実施計画等について検討を進めている。</p>	
今後の計画	
<p>CC-EPOC 導入に向けて順調に進めており、トライアル実施に向けた具体的な実施案の作成、問題点の洗い出しの検討を行う。学内での取り組み状況に応じ、順次、学外広域連携病院への検討も開始していく計画である。また、本学学生・教職員のほか、学外協力病院等にわかりやすく示すために、CC-EPOC 専用ホームページを作成し、コンテンツの精査を行う。</p> <p>また、「医行為の記録」より、学生が経験できた症例、病態、技能、手技等を把握・評価するとともに、データ集計・分析方法を検討し、実習内容の改善を図っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料4 令和6年度医学部教務委員会議事（第9回 令和7年1月14日開催）	
資料6 令和6年度医学部教務委員会議事（第11回 令和7年3月11日開催）	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.2 臨床実習の資源
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
患者や地域住民の要請をふまえ、臨床実習施設の整備をさらに進めることが望まれる。	
現在の状況	
<p>令和6年度に YU-MAI センターが設立され、従来の講義室ではできなかった学生の主体性を重視した教育活動の展開（アクティブラーニングやハンズオンなどの体験学習）が可能となった。また、患者面接や診療に必須となる手技等の訓練、各種シミュレーターを活用した模擬診療等の練習することが可能となり、学生のスキル向上につながる。</p> <p>開所記念式典での内覧会では、学内関係者だけでなく、学外・地域住民の方からご参加いただき、教育施設の案内を行った。</p>	
今後の計画	
<p>地域医療に関する実習機会の提供に努めていく。</p> <p>YU-MAI センターを活用した患者や地域住民の要請に応える教育システムの構築を検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
Moodle、WebClass などの ICT をより有効に利活用する方針を作成して履行すべきである。	
現在の状況	
<p>遠隔教育の推進を図るため、講義録画システムを導入した。講義動画を容易かつ安定的に収録可能な新システムを構築し、各講義室に講義動画専用端末を設置した。令和6年11月から運用開始しており、数十本の動画が作成されており、これらの動画コンテンツは学生の予習・復習に活用され、デジタルライブラリー化が進んでいる。</p> <p>また、Moodle を利用して学生の出欠管理ができるように、出欠管理システムの導入の検討を開始した。各講座でのトライアルの実施を行いながら、令和7年4月からの運用に向けてマニュアルを整備した。</p>	
今後の計画	
<p>Moodle の更新を実施し、使いやすいシステムの構築・機能の拡充を検討するとともに、e-learning コンテンツの拡充を図る。</p> <p>講義録画システムを導入し、オンデマンド講義の実施環境を構築する。</p> <p>出欠管理システムの効果を測るためのアンケートを実施するとともに、要望に応じて随時説明会等の開催を設けることを検討する。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料5 令和6年度医学部教務委員会議事（第7回 令和6年11月12日開催）	
資料6 令和6年度医学部教務委員会議事（第11回 令和7年3月11日開催）	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム開発や教育技法・評価方法の開発について、教育専門家の育成と活用をさらに推進すべきである。	
現在の状況	
<p>卒後臨床研修のための指導者講習会にも医学教育の基礎的な内容が含まれていることから、当該講習会に参加する教員を増やして専門家教育の一環とすると同時に、その成果をカリキュラム開発に役立てる。</p> <p>卒後臨床研修のための指導医講習会や共用試験実施評価に係る認定講習会の受講者を増やして専門家教育の一環とすると同時に、その成果を学生指導に役立てる。</p>	
今後の計画	
医学教育学講座を中心に最新の医学教育動向をキャッチし、医学教育の専門家（客員教授）の活用を促進しながら、医学教育の課題改善に取り組んでいく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>教員の教育能力向上において学内外の教育専門家の活用をさらに推進することが望まれる。</p> <p>教職員が教育に関する研究をより一層遂行することが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>FD 講演会の開催形式を対面、オンライン、オンデマンドに拡大し、より多くの受講者が参加できるように計画し実施している。令和6年度は、日本医学教育評価機構（JACME）常勤理事の奈良信雄先生をお招きし、8月「プロフェッショナルリズム教育」、2月「特別な支援を必要とする学生への支援」をテーマにご講演いただいた。引き続き、FD 講演会を開催し、より多くの教員が参加できる仕組みを検討していく。</p> <p>IR 分析に基づく研究や寄附講座による課題解決のための研究が展開されている一方、医学教育に携わる臨床系教員の多くが附属病院での診療に携わっており、教育的な研究を行うための時間的余裕が不十分であること等が課題である。</p>	
今後の計画	
<p>FD 講演会は学外の教育専門家を講師に招いており、広域連携臨床実習関連病院の指導医に対しても広く周知し、これまで以上の参加者の拡大を図る。</p> <p>教育部門の教員配置や設備等の拡充に努めて、教職員が教育研究を行うための支援体制の充実を図っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料12 令和6年度FD講演会実施要項	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>学修成果の到達度を定期的にモニタするシステムを構築すべきである。</p> <p>教育プログラムを評価する委員会（教育プログラム評価委員会、教務委員会、医学部 IR 委員会）の役割分担を明確にすべきである。</p> <p>モニタ結果をもとに、特定された課題を検討し、カリキュラム改善に確実に反映させるべきである。</p>	
現在の状況	
<p>令和6年度に教学に関係する委員会のそれぞれの役割を明確にし、教学のPDCAサイクルを確実にまわすための仕組みづくりを検討し、医学教育プログラム策定委員会を設置した。本委員会においては、教育プログラム全体の再編（授業内容の見直し、低学年からの現場での体験・見学プログラム等）を目指し、検討を開始している。</p> <p>全学組織においては、教育推進機構運営会議が組織され、カリキュラム・チェックリストの検証・認定作業を通じた教育プログラムの評価が行われている。</p>	
今後の計画	
<p>教学に関する委員会（医学教育プログラム策定委員会、教務委員会、カリキュラム検討委員会、教育プログラム評価委員会）におけるPDCAサイクルを機能させるために役割の強化図っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 1 1 山形大学医学部医学教育プログラム策定委員会規程	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会の活動を実質化し、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。	
現在の状況	
<p>日本医学教育評価機構からの指摘事項をふまえ、教育プログラム評価委員会では、問題点について、教学における課題改善に向けた具体的な方向性（対応策）を、教務委員会等の関係する委員会に示した。</p> <p>教育プログラムの全体的な成果を把握するために、CBT 試験、5年次試験、卒業試験、特別試験、医師国家試験外部模擬試験のデータを活用し、学生の進歩に関する評価を継続的に行っている。それらのデータを総合して卒業判定を実施している。また、CBT スコア、5年次試験、卒業試験までのデータを分析し、医師国家試験の合格率を上げるための取り組みに活用している。</p>	
今後の計画	
<p>医学部 IR 委員会の活動を実質化するため、各委員会においては、解析を依頼するデータ等を検討する。</p> <p>カリキュラム内容と学内試験、共用試験および医師国家試験の各成績等を包括的に検討し、適切な教育プログラムが実施されているか評価を行っていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 17 教育プログラム評価委員会議事（令和 7 年 3 月 5 日開催）	

今後改善が見込まれる項目

7.教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教員および学生から教育プログラムに関するフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。	
現在の状況	
カリキュラム検討委員会では、本委員会の学生委員から令和7年度のカリキュラムに関して意見・要望等を確認しながら議論を行った。 医学科学生と教務委員会委員との意見交換会において、学生から意見聴取し教務委員会にて報告、学生へのフィードバックを行っている。	
今後の計画	
カリキュラム検討委員会等において、教員および学生からの意見を定期的に集約していることを踏まえ、その内容を分析して改善策を具体的に示して対応していく。 カリキュラム検討委員会や医学科学生との意見交換会での意見聴取に加え、学生に授業評価等のアンケート調査の実施を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

7.教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
教育プログラム評価委員会を実働させ、教育プログラムに関するフィードバックを系統的に求め、分析し、教育プログラム開発に利用することが望まれる。	
現在の状況	
教育プログラム評価委員会においては、2巡目評価の判定結果を踏まえた改善のための方向性を検討し、教務委員会およびカリキュラム検討委員会へ教学における課題改善に向けた具体的な検討を依頼・通知した。	
今後の計画	
今後も教育プログラム評価委員会をカリキュラム検討委員会や教務委員会からのフィードバック情報に基づいて定期的で開催していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料17 教育プログラム評価委員会議事（令和7年3月5日開催）	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修成果とカリキュラムに関して、学生と卒業生の実績を系統的、継続的に分析すべきである。	
現在の状況	
卒業生の進路に関する情報は、医学科同窓会である「蔵王会」及び卒後臨床研修センターにて情報収集し概ね把握している。県内で医師として従事する場合は追跡調査等がある程度可能であるが、県外で医師として従事している卒業生の評価が不十分であるため、同窓会を通じた情報収集の対応検討が必要である。	
今後の計画	
医学科同窓会である「蔵王会」の活動を継続的に実施するとともに、卒後臨床研修センターとも連携していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<p>教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会が主体となり、学生と卒業生の実績を系統的、継続的に分析し、その分析結果を責任ある委員会へフィードバックすることが望まれる。</p>	
現在の状況	
<p>医学部 IR 委員会が主体となり、学生の出席率、留年率、試験成績、国家試験の合否、卒業後の進路等データの蓄積状況から、入学者選抜方法やカリキュラム、教育内容を進めるための分析を行い、学生と卒業生の業績を系統的・継続的に分析することが可能である。一方、卒業生の進路に関する情報は、卒後臨床研修センター及び蔵王会が概ね把握しており、県内に従事している卒業生の調査はある程度可能であるが、県外の卒業生については情報収集の対応検討が必要である。</p> <p>分析した結果は、教務委員会、カリキュラム検討委員会、入試検討委員会及び教育プログラム評価委員会にフィードバックし検証していく。</p>	
今後の計画	
<p>医学部 IR 委員会での学生と卒業生の業績を系統的・継続的に分析していく。</p> <p>学生データの収集を継続するとともに、同窓会を通じてデータ収集に努め、卒業後の長期的な進路・成果の評価が十分にできる対策を講じていく。</p> <p>教務委員会、カリキュラム検討委員会、入試検討委員会及び教育プログラム評価委員会、医学部 IR 委員会による学生の実績分析を継続しカリキュラム立案にフィードバックしていく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラム評価委員会に、学生など教育に関わる主要な構成者が参加すべきである。	
現在の状況	
教育プログラム評価委員会に、医学部長、教務委員会委員長経験者を構成員として加わっており、教育プログラムのモニタリング、評価を検討している。 プログラム評価の部分はカリキュラム検討委員会が一部対応しており、本委員会に学生が参画し、学生の意見等を取り入れられる対応を行っている。	
今後の計画	
教育プログラム評価委員会に学生を参加させる是非の検討を行っていくが、現状難しいと考える。教育関係担当者等に医学教育分野別評価での指摘事項に対して、本学が対応するための方向性（対応策）等についてヒアリングを行い、意見を反映できる取組みを検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、広い範囲の教育の関係者から教育プログラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
現在の状況	
学外の臨床実習協力病院の多くが卒業生の研修先となることから、広域連携臨床実習運営会議を通じて研修環境に関する情報を得ることにより臨床実習に係る教育プログラムに対するフィードバックを得られる。また、「蔵王協議会」、「山形県知事と山形大学医学部教授との懇談会」、「山形県知事と山形県医師会との懇談会」および「医学部顧問会」を通じた情報収集・発信を行っており、広い範囲の教育関係者からフィードバックを受ける体制を整えている。	
今後の計画	
効果的にフィードバックが得られているか検証し、必要に応じて改善していく。山形県広域連携臨床実習運営会議において、医学教育分野別評価による医学部の使命および学習成果についての意見聴取を実施予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
統轄業務に関する決定事項の透明性を高めることが望まれる。	
現在の状況	
教務委員会の審議内容は、議事概要を記録・保管している。また、医学部教授会の議事次第は、本医学部のホームページに公表しているが、具体的な審議内容までは公表していない状況である。	
今後の計画	
統括業務に関する決定事項の透明性を高められるように、第三者からも検証・確認できるシステムの導入等を検討していく。また、医学部ホームページの内容について見直しを検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.2 教学のリーダーシップ
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に教学におけるリーダーシップの評価を行うことが望まれる。	
現在の状況	
<p>医学部長、教育関連組織の委員は、中期目標・中期計画における対応としてリーダーシップを発揮しており、また任期制に基づき一定の評価がなされている。</p> <p>また、「学生と学長・理事及び各キャンパス長との懇談会」が毎年開催され、学生側の率直な意見要望を聴取することができる。学生側は教育プログラムやカリキュラムに関する課題などを学長等に直接伝えられる場であり、医学部長、教務委員会委員長は教学におけるリーダーシップが評価されている場となっている。</p>	
今後の計画	
科目ごとの学生による評価方法、科目責任者へのフィードバック体制の構築を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.4 事務と運営
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<p>教学に関わる事務職員をより充実し、教育プログラムの管理、運営、活動を支援すべきである。</p>	
現在の状況	
<p>教学に関わる事務職員の配置については、飯田キャンパス事務部に学務課が設置されている。学生関連委員会、教育課程編成・実施方針、学籍に関すること、入学者選抜に関すること、経済支援、奨学金等の事務を担っており、教育プログラムの管理・運営・活動を支援している。</p>	
今後の計画	
<p>事務職員は人事異動が伴うため、支援業務を充実させるためには、配属後の専門的な業務内容を理解して対応できる人材養成等の方策を検討する必要がある。</p> <p>また、事務職員の増員について、今後も大学本部に継続して要望していく。</p>	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
健康増進と疾病予防を行う保健医療関連部門と、学生との協働をより積極的に実施することが望まれる。	
現在の状況	
<p>山形大学 Well-Being 研究所は、長年本学が実施してきた「山形コホート研究」の成果を基に、自治体、企業、医療機関、教育研究機関と連携して、個人と地域の個別化健康づくりを支援し社会実装することを目的に、令和5年4月から全学組織として飯田キャンパスに設置し活動を行っている。</p> <p>学生はコホート研究のこれまでのデータを使用し、データ解析等を行い研究に活用している。</p> <p>また、令和6年度に再開された県医師会との懇談会では、種々の取組み状況の報告及び問題点や課題に対する意見交換が行われた。</p>	
今後の計画	
地域社会、保健医療関連部門と学生との協働の在り方を継続的に検討していくとともに県知事や医師会への学生の参画についても検討を図っていく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1 山形大学医学部と山形県医師会との懇談会次第	

今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
1 巡目の評価に指摘された「改善のための助言/示唆」について十分な改善が認められない点も多くあり、教学における課題を学生および教職員が共有して、可及的速やかに修正すべきである。 教育（プログラム）の教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定し、明らかになった課題を修正すべきである。	
現在の状況	
現状のシステム・水準を維持しつつ、現状で整備された継続的改良のための種々の取組みの問題点や課題を抽出して改善に向けて検討する。	
今後の計画	
プログラム評価委員会をさらに実質化し、課題を抽出した結果を助言として関係する委員会に報告して対応を依頼するとともに、進捗を管理して年次報告を繰り返していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
無し。	